

平成 28 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞  
(国土交通大臣賞)

「 知って、備えて、みんなで守ろう 」

宮崎県宮崎市立生目台東小学校 6年 甲斐 美郷

最近、母が防災の勉強を始めました。災害というと、私には津波や地震といったイメージが大きかったのですが、土砂災害もこわい災害と教えてくれました。2014 年、広島で大きな土砂災害があり、一瞬にして多くの家が土砂にのみこまれた映像を思い出しました。また、以前住んでいた所のそばには土砂災害危険箇所があり、土砂災害は身近な災害だと感じ、じっくり考えてみました。

日本は土砂災害が起こりやすい国です。理由は、約 7 割が山地になっていてたくさんの断層や構造線があるからです。今年の梅雨も雨がよく降りました。大雨が降ったらどうしよう、がけが崩れたらどうしようなどの不安が頭の中をぐるぐるまわっていました。しかし、この土砂災害が起きやすい場所をあらかじめ知っていればどうでしょうか。確かに山が崩れたらこわいのですが、大雨の情報収集を積極的にしたり、早くひなんしたりできます。また、ひなんする道が安全か分かっていると落ち着いて行動できます。このように自分たちの地域をよく知っておくといざという時の対応が素早くなります。

土砂災害が起きるかもしれないと自分で気付ける方法はないのでしょうか。このこわい土砂災害の前兆は、調べてみると大きく分けて 3 つあることが分かりました。

1 つ目は、音です。普段は聞かない音や斜面にある木の根が切れる音、山鳴り、木がザワザワとゆれる音などです。これは土石流が発生する時、落下している時の音の可能性あります。

2 つ目は、異様なにおいです。土や木の葉が腐ったにおい、土くさいにおいなどのことです。これらのおいには山崩れが発生している可能性を示しています。

3 つ目は、異様な様子です。雨が降り続けているのに川の水位が下がる、沢や井戸の水がにごる、地震のようなゆれが急に起こる、崖から小石がパラパラ落ちてくる、といったことです。これは、山崩れや地滑りが発生していたり、崖から小石が落ちるのは崖崩れの可能性を示しています。

この 3 つの前兆は、目で見えるもの、耳で聞こえるもの、鼻でかげるもので、人間の五感で知ることができます。自然から土砂災害を教えてもらえるかもしれないので、しっかりと五感を研ぎすましておきましょう。

人間は自然には勝てません。しかし、備えはできます。私の家ではどうなっているのか両親に聞いてみました。すると、保存食や水、ヘルメットなどと防災グッズがありました。家族みんなが知らないの意味ないよね、と話し合い、みんなで点検をしました。話し合いでは、絶対にもっていくべき物を決めました。学校や地域の防災訓練も積極的に参加しています。先生方や消防の方に実際に災害がおこると体が動かなくなるので、訓練で体にしみこませるのが必要だというお話を聞きました。地域の防災マップで家族でどこにひなんするのか決めていきます。災害のときに心配になるのは家族の安否です。場所が分かっていると安否が確かめられやすくなります。171 の災害用伝言ダイヤルをためてみました。家族との連らくの取り方を話し合っておくと良いと思います。

土砂災害では、他にどのような備えができるでしょうか。例えば、山に近い部屋では寝ないというきまりをつくったり、昔の地形を調べて知ったりすることができます。昔の地形を知ると、その場所がぐずれやすいかなどと自分で考えられます。自分でできることを実行して、土砂災害が起きても落ち着いて行動できるようにしておくことが大切です。

私は、今回学んだことを多くの人に伝えていこうと思います。みなさんも土砂災害について知って、備えて命を守りましょう。